

構築された可能性もある。従って、5号古墳は不明であるが、3基の古墳にさらに遅れて構築されたものと推定することもできる。

第2節 飛騨地方の横穴式石室について

飛騨地方で横穴式石室を有する古墳は、開口していて知られているものがいくつかあるが、発掘調査された例はほとんどなく、その研究は遅れている。

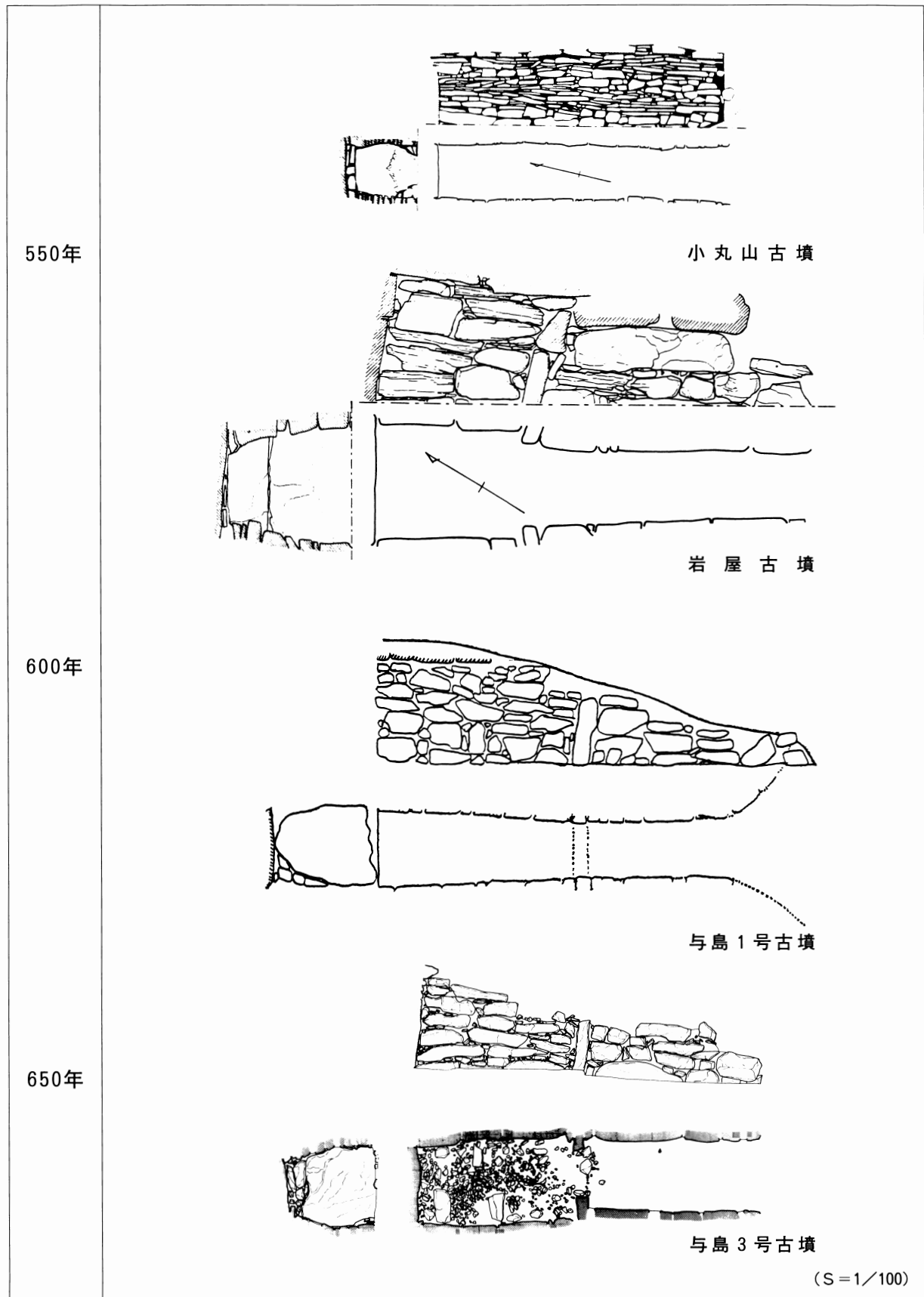
県内の横穴式石室の研究に関しては、成瀬正勝氏が美濃地方を中心にまとめたものがある（成瀬1985）。さらに、中井正幸氏が、岐阜県内の横穴式石室を集成し、各地域ごとにその編年案を示している（中井1992）。その中で、飛騨地区としては、一覧表に9基の古墳が記されている³⁾。高山市内の古墳に関しては、第2章第2節で述べてあるように、横穴式石室を有する古墳についても、いくつか知られている。しかし、測量調査などがなされ資料化された古墳としては、発掘された本古墳群の3例とさらに上述の2例（与島1号古墳、西之一色1号墳）を追加することができる。

中井氏は、楣石や鴨居石の状況からの視点で分類し編年が試みられているが、今回の与島古墳群に関しては、残念ながら天井部の残存は悪く、その部分の検討は詳しくできない。構築年代は、いずれも出土した須恵器の状況から見て、7世紀代中葉におさまるものである。また、与島1号古墳は、今回調査された3基の古墳に先行するものと考えられる。従って、中井編年の「高山市域」では、7世紀代が空白になっているが、本古墳群の例はその空白を埋める資料となる。

飛騨地方の横穴式石室を実際に現地で観察すると、特に7世紀代のものに関しては、石室の実測図から見ても明らかであるが、玄門部に特徴が見られる。それは、平面形を見ると、玄室・羨道が直線的に作られ、玄門が中へ突き出しているという点である⁴⁾。本古墳群の3号古墳も、典型的なタイプのひとつといえる。つまり成瀬分類（成瀬1985）のⅢB c類が7世紀代に顕著に見られるという点である。また、玄門立柱石は、玄室側には斜めに両外に開き、羨道側は壁に対して垂直に直線的な石が利用されている場合がある。羨道部に偏平な石を閉塞石として利用したと想定することもできる。

玄門部に注目して見ると、高山市の岩屋古墳は玄門が張り出していないタイプであり、別の系譜の石室であることが予想される。また、与島1号古墳は、無袖式のタイプであり、様相が異なる。そして、中井編年を参考にして、高山地域の横穴式石室の変遷を検討すると、6世紀代に竪穴系横口式石室といわれる小丸山古墳が古くに位置づけられ、その後に両袖式の岩屋古墳が続く。7世紀代に入り、無袖式の与島1号古墳があり、その後に与島3号古墳が来るであろう。

- 1) 前方後円墳ではないという考えもある。
- 2) 4世紀後半という築造年代が推定されている（国府町教育委員会）。
- 3) 信包八幡神社古墳、大洞平1号墳、大洞平2号墳、高野水上古墳、高野光泉寺古墳、こう峠口古墳、広瀬古墳、小丸山古墳、岩屋古墳の9基である。
- 4) 大洞平1号墳、高野水上古墳、高野光泉寺古墳など。



第32図 高山地域の横穴式石室の変遷

引用・参考文献

- 各務原市教育委員会 1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』
- 河合英夫 1989『岐阜県古城郡古川町上町遺跡C地点発掘調査報告書』
- 岐阜県 1972『岐阜県史』通史編原始
- 岐阜県教育委員会 1962『岐阜県遺跡目録』
- 1990『改定版 岐阜県遺跡地図』
- 古代の土器研究会編 1992『古代の土器 1 都城の土器集成』
- 鈴木道之助 1981『図録石器の基礎知識Ⅲ』
- 高山考古学研究会 1980a「よしま第一号古墳調査報告」『どっこいし』第8号
- 1980b「よしま第一号古墳調査」『飛騨春秋』25-11
- 1984「西之一色一号古墳の調査」『飛騨春秋』29-9
- 高山市教育委員会 1971『冬頭王塚発掘調査報告』
- 1984『善応寺遺跡』
- 1985『西之一色町岩屋古墳 三福寺小丸山古墳 調査報告書』
- 1989『松山第1～3号横穴発掘調査報告書』
- 1995a「岐阜県高山市遺跡地図」(台帳編)(地図編)
- 1995b『高山の文化財』
- 1996『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 田口昭二 1982「猿投窯の灰釉陶器と緑釉陶器」『考古学ジャーナル』221
- 1983『美濃焼』
- 田中 彰 1993「現存する高山市内の古墳」『斐陀』第3号
- 田辺昭三 1966『陶邑古窯址』Ⅰ
- 東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会 1992『古代仏教東へ——寺と窯——』1. 寺院編 2. 窯編
- 中井正幸 1992『花岡山古墳群』
- 成瀬正勝 1985「横穴式石室の型式と変遷について——特に美濃地域の場合——」『岐阜史学』79
- 八賀 晋 1984「各地域における最後の前方後円墳 岐阜県」『古代学研究』105
- 1988「飛騨の古墳と古代寺院」『飛騨国府シンポジウム古代の飛騨』
- 斐太高等学校郷土研究クラブ 1960「杉ガ洞横穴調査概報」『有斐』第1号
- 斐太高等学校郷土研究部 1974「飛騨の古墳の研究」『有斐』第16号
- 飛騨国府シンポジウム実行委員会 1988『飛騨国府シンポジウム 古代の飛騨—その先進性を問う—』
- 1991『第2回飛騨国府シンポジウム飛騨と文化——豊かな生活の再現——』
- 藤本健三 1993『半田垣内遺跡』
- 渡辺博人 1996「美濃の後期古墳出土須恵器の様相——蓋坏の型式設定とその編年試案——」『美濃の考古学』創刊号